



3年生、能楽を堪能!

8日(水)文化庁の芸術鑑賞教室があり、3年生が能楽を鑑賞しました。この日は喜多流の佐々木多門先生始め14名の方が来校し、一関喜櫻会の皆様にもご協力いただいて作った体育館の特設舞台上で、能の「羽衣」と狂言の「柿山伏」を披露していただきました。

中学生には難しいかなと思っていましたが、3年生の皆さんは、狂言の滑稽さに笑い、天女の舞の華麗さにうっとり見とれていました!



○深く考える程、面の表情が変わって見え、感情を読み取ることができ、面ってすごいなと思いました。

○面をつけた男性の方の動きがとても女性らしく、おしとやかに感じられました。背筋もピッと伸びてきれいでした。

○山伏が必死だった分、物真似が面白く、間抜けに退場したことも含め、愛すべきキャラクターだと感じた。

○立つ時、座る時、扇子を腰に入れる時など、様々な動作で品の良さが感じられ、日本文化は素敵だと思った。

◀柿山伏▶ 修行の帰りに、空腹になった山伏が柿の木へ登り実を食べていたところへ、畑の主が見回りにきました。木の陰に身を隠した山伏を見つけた畑の主は、素知らぬ顔をし、あれはカラスだ、サルだと呼びかけるので、やむなく山伏もその鳴き真似をします。そして、トビなら空を飛ぶだろうと囁すのにつられ、つい飛ぼうとして墜落し、起き上がれなくなります。笑って去ろうとする畑の主を、祈りの力で呼び戻した山伏は、いったん自分を背負わせますが、すぐに振り落とされてしまいます。

◀羽衣▶ 三保の松原で、漁師が天人の羽衣を見つけます。返してほしいと願う天女(この日演じたのが右写真の佐々木多門先生)に、漁師は舞を見せてくれるなら衣を返そうと答えます。衣を身にまとった天女は、優雅で美しい舞を舞います。そして、地上に数々の宝を降らすと、天上界へと帰っていくのでした。 ※日本芸術文化振興会HPより引用



新執行部、着々と実行!

新旧の交替がなされた生徒会ですが、着々と公約が実行されています。

今月から正門前、昇降口前での挨拶運動が始まり、7日



(火)の生徒朝会では、オリジナル動画による清掃講習会も開催されました。新執行部、張り切っています!



▶5日(日)関が丘市民センターでクリスマスリース作り体験会があり1年金子紗羽さん、佐藤由乃さん、松岡優奈さんがボランティア参加しました。

▶先月の全校朝会校長挨拶で面接について話しました。右写真はある場所で見つけた額ですが、普段の生活がそのまま面接に表れる、いい生活で「いい顔」を作りましょうと話しました。

